５１会旅行記

初日(１０／２６)

東京駅銀の鈴でＩ君と待ち合わせ、さすが早起き、「時間前に着いたので、東京駅丸の内側の改装された駅舎を見学していた」そうです。８時２８分発はやて２１７号にて、いざ青森へ。

大宮駅からＮ君乗車。おじさん３人、仲良く３列シートです。Ｎ君持参のガイドブックを回し読みしながら、旅行の行程を検討しました。

仙台駅からＳ君乗車。彼は隣の車両でしたが、さっそく表敬訪問してくれました。

やあやあとのご挨拶の後、「あれ優美子さんは？」とＮ君へ質問。全然メールを見ていないことが判明。一同大笑い。

１２時５５分、新青森駅到着。さっそく、駅なか食堂へ。海鮮丼(大間のまぐろ)が魅力的でしたが、「時価」が気になり、確認すると２０００円以上、パスしました。津軽ラーメンの店で、しじみラーメンを注文。なぜか、Ｓ君だけが馬刺しの握り寿司を追加注文。(この余裕が、さいごに仇となるとは知らずに・・・・)

昼食後、ニッサンレンタカーへ。「駅前にあるはず」と、私、地図も確かめずに来たのですが、駅前は閑散としていて、レンタカーの看板は、遠くに「ニッポンレンタカー」が見えるだけ。Ｎ君のスマホで検索してもらいましたが、なかなか場所が特定できません。ほぼ当てずっぽうで歩いていると、なんと先ほどのニッポンレンタカーの看板の下に、オリックスレンタカー、ニッサンレンタカーの看板があるではないですか。レンタカー店の集積だったのです。

運転実績のあるＳ君(毎日乗車)と私が、窓口で手続き。当初は、運転に積極性を見せていなかったＳ君ですが、「僕が運転する」の力強い一言。結局、カーナビともめながらも、３日間ドライバーを務めたのはＳ君でした。

最初の訪問場所は、ｼﾞﾌﾞﾘ映画「借りぐらしのアリエッティ」の舞台の参考になった盛美館。こちらは、洋館の美しさをガイドブックでみて、訪れたのですが、見事な日本庭園と仏殿(30分ごとに３分間公開)に、「昔の金持ちはスケールが違う」と、おじさん４人で感心していました。金箔の御宝殿の内壁には日本で最大の蒔絵（螺鈿入りです）が２枚あてはめられていました。素晴らしいです。

盛美館の庭

盛美館の洋館

おじさん４人

続いて訪れたのが、長勝寺。弘前城主であった津軽家の菩提寺です。山門が立派で、この辺りは寺町になっていました。ついでに、景勝院の五重塔にも立ち寄ってみました。こちらは、昨年の羽黒山の五重塔ほどではありませんが、秋の気配漂う中、趣がありました。

長勝寺

長勝寺

景勝院の五重塔

初日のメインは弘前城ですが、その前にホテルでチェックイン。パック料金で安かったのと、ネットの書き込みが賛否両論だったので、少々不安でしたが、立派なシティホテルでした。部屋に荷物を置いて、すぐさま弘前城に。お堀が二重三重になっていて、とにかく広い。桜の季節にはフォトスポットとなる下乗橋に行き、写真を取り合っていると、地元の方らしきおじさんから、「よかったら、撮ってあげますよ」の親切な一言。お言葉に甘えて、４人そろって弘前城の天守閣をバックに一枚。写真を撮り終えると、おじさんから弘前城の豆知識を教えていただきました。弘前城の天守閣とされている建物は、実は櫓だったそうです。どうりで、小さな天主閣でした。お城見物の後は、城址公園内を散策。公園から見えた、夕映えの岩木山は絶景でした。

枝垂桜はこの時期は少々元気のない様子でしたが、見ごろの時期には本当に素晴らしい枝ぶりなのだろうと想像しました。また、公園内の休憩所には、過去の桜祭り（毎年ゴールデンウィークに開催されます。）のポスターがズラリ。さすがの歴史を感じました。

弘前城案内板

親切なおじさんの写真

ちょっと夕映え前

だいぶ暗くなったのですが、洋風建築さんぽとして、「旧弘前市立図書館」と「旧東奥義塾外人教師館」を見学.また、その裏手にあった弘前市内の歴史を物語る１０数件の西洋建築物のミニチュアが展示されている小公園をぶらり。これも弘前が人気ある要因なのだと思いました。

旧弘前市立図書館

旧東奥義塾外人教師館

西洋建築物のミニチュア

弘前市立観光館に展示されている山車を見学

再びホテルに戻り、一服したのち、いざ夜の弘前へ。フロントでおすすめのお店を紹介してもらいました。(なぜか最初に勧められたのはホテル内のお店でしたが)　郷土料理のお店「菊富士」へ。早速、メニューを見ると、貝焼き、じょっぱ汁、けの汁、ホタテのグラタンなどなど、津軽ならではのメニューが満載。端から順番に注文。郷土料理を堪能しました。酒豪のＩ君は、３種の日本酒を飲み比べられる「利き酒セット」を注文しまくり、「これは甘い、これは辛い」など講釈言いながら、飲んだくれていました。

酒宴のスタートが早めだったので、部屋で２次会をすることに。私とＳ君はホテル内のケーキ店で買ったケーキ、Ｎ、Ｉ両君はコンビニで買ってきた日本酒で盛り上がりました。(二次会開始早々、爆睡してしまい、わたしはその後の詳細を知りませんが)

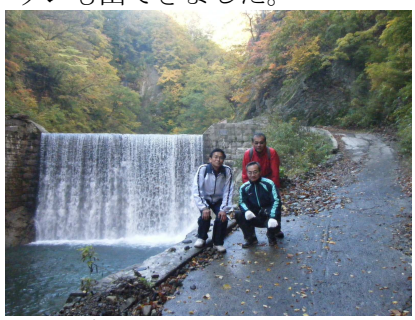
２日目（１０／２７）

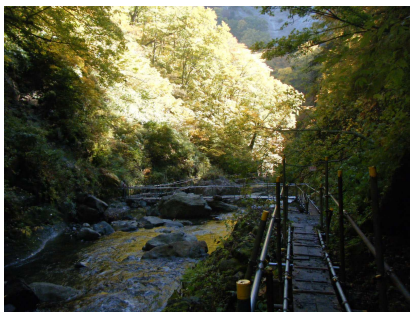
今日のメインは、白神山地です。６時起床、雲一つない快晴。７時には、朝食の食卓に集合していました。朝食は和食を予約していたのですが、１３００円とちょっと高め。

でもでも、その内容に納得というか驚きでした。朝から貝焼きがついているだけでなく、１２種類ものお料理を堪能できました。おいしいものを少しずつの、まさに女子心をとらえる粋な朝食でした。（おじさん４人でしたが）

８時、ホテルをスタート、約３０分で、白神山地の入り口、ガイドセンターに到着しました。

案内所でマップをもらい、暗門の滝コースを散策。「往復３時間の比較的なだらかなコース」と、ガイドブックには書かれていました。「上高地みたい」と思いながら、かなり余裕で歩き始めたのですが、次第に道は狭くなり、ややアップダウンも出てきました。





約１時間ほどで第三の滝に到着。滝つぼ周辺には、たくさんの人。いきなり、S 君が、マイク片手の女性レポーターに捕まる。「なぜ白神山地に来られましたか」の質問に、私に手招き。「世界遺産だから」の私の平凡な答えに、明らかにがっかりするレポーター。これはまずいと、「友達からいいところだよと言われたので」とフォローするも時すでに遅し、たぶん、カットされたでしょう。

滝を眺めていると、I 君が「滝の上を歩く人が見える」と。なんと、つぎの第二の滝はここから３０メートルほど登ったところでした。崖づたいの坂というか階段というか、足元ばかり見ながら歩くこと数十分、第二の滝に到着。さらに登ること数十分、最終目的地、第一の滝に到着。三つの滝は後になるほど、高く、大きくなっていました。特に第一の滝では、水しぶきいっぱいでマイナスイオンをたっぷりいただけました。

第三

第二

第一へ

第一にて

暗門の滝からの帰りは途中から「ぶな林散策コース」ですが、ほとんど登りのコース でした。途中すれ違う観光客の方は比較的年配の方が多く、どうも往復を逆コースで巡ったみたい？

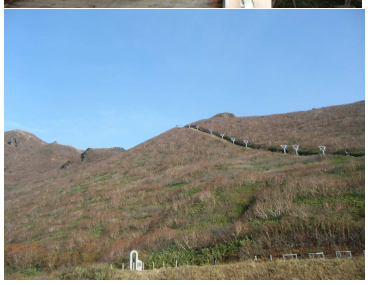
ガイドさんの解説で「ウダイカンバ（鵜松明樺）」、「白樺」、「ダケカンバ（岳樺）」の解説を聞き「なるほど」

昼食は、センターハウスのレストランで、おそばをいただきました。ついでに地ビールも少々(ドライバーのＳ君はノンアルコールビール)。

昼食後、車でマザーツリーに。国道ながら、舗装されていない、砂利道な上、カーブの連続。さすがのＳ君も緊張の連続だったようです。(実は、この砂利道が後程とんでもない結果に)　４０分ほどで、津軽峠に到着。めざすマザーツリーはここから歩いて５分ほどのところです。散策路を歩けば２時間以上かかるところを、楽をして車で来てしまったため、本来は神々しいマザーツリーなのに、あまり感動しませんでした。(やっぱり苦労しなきゃいかん)

マザーツリーの駐車場での紅葉は真っ青な空の色との対比で本当に素晴らしい景色でした。

十二湖へは遠いので、パス。岩木山を目指すことにしました。スカイラインと、かっこいいネーミングとは名ばかりで、ヘアピンカーブの連続(なんと６９もありました)、それまで助手席でうとうとしていた私も、さすがに、目が覚めました。八合目に到着、展望台からは、はるか日本海が望めました。



８合目まで車で行けるのですが､先週まではそこからリフトで頂上まで行けたとか。Ｔ君は頂上までいったのかな？

山歩きの疲れをいやすため、私推薦の「リンゴ風呂」に入るべく、りんごランドへ。こちらは、りんごの集荷工場があり、工場の収益で、ホテル経営や温泉経営をしています(やや成金趣味の得体のしれない観音像があり)。入浴前に、工場の事務所で、自宅に送るべく、リンゴを購入。(宅急便で２日後に届きました。本当に美味しいりんごです)

いざ、リンゴ風呂へ。受付を済ませ、大浴場に向かおうとしたところ、係の女性から「大浴場は３時までで、今の時間は別館の竹炭の湯になります。」「ええ、聞いてないよ。リンゴのお風呂楽しみにして来たのに」。泉質はよく、疲れは取れましたが、リンゴが恋しい。

今夜の夕食は、フレンチです。「おじさん四人でフレンチはないよ」「いやいや、せっかくフレンチの町､弘前なんだから」「昨日は郷土料理だったから今日はフレンチが」､結局おじさんでも違和感のない、ビストロに行くことになりました。土曜日なので、予約をしておかねばと、電話をしたのですが、お店の方の対応は、まるでやる気なし。大丈夫か、場末じゃないのかと、不安ちょっぴりで、６時過ぎに入店。カウンターとテーブル席のこじんまりしたお店、シェフひとりでした（予約の対応に納得)。黒板には、本日のおすすめが満載。ワインを飲みながら、フレンチに舌鼓。(シェフからのお勧めのワインですが値段が判りません。思わず聞いてしまいましたがリーズナブルな価格でほっと一息。ちょっとせこかったかなー)

どの料理もリーズナブルで、おいしかったです。特に、特製のハンバーグはお肉がみっちり詰まっていて、食べごたえありました。ここでの唯一の誤算は、Ｓ君が「お願いだから頼ませて」と懇願した、ビーフの炙り焼きでした。値段が１９８０円と突出して高いにもかかわらず、いわゆるローストビーフでした。

途中コンビニに寄って、日本酒を買い、ホテルに到着。フロントでキーを受け取ろうとしたところ、「車がパンクしていました」とのこと。あの砂利道で、パンクしたのかも。

３日目（１０／２８）

今日は、曇り空、天気予報では午後から雨らしい。朝食は、バイキング、何故か全員、パン食でした。Ｓ君は、朝から食欲旺盛、クロワッサンのお代わりしていました。

朝８時スタートの予定でしたが、まずはパンク修理を。スペアタイヤを探しましたが、見当たりません。レンタカー会社に問い合わせたところ、「パンク修理パック」が入っているとのこと。応急的に修理剤を注入して、ガソリンスタンドに持っていくようにとの指示でした。不親切な取扱説明書に悪戦苦闘して、修理剤を注入。ところが、タイヤのチューブから吸入口がはずれていて、注入できません。

結局、ホテルマンのご好意もあり、タイヤを外して、ガソリンスタンドに持参し修理してもらうこととなりました。ここで、俄然活躍したのが、S 君。何しろ、毎年、３台のタイヤ交換をしているので、手際良くジャッキアップして（N 君は詳細に作業手順を観察)、すばやくタイヤを外してくれました。

パンク修理には、しばらくかかるとのことだったので、ホテルのロビーで待機ということになりました。不幸中の幸いとばかり、ホテル内の喫茶室で、念願のアップルパイ（弘前名物）をいただきました。

今日の最初の訪問地は、太宰治の生家「斜陽館」、五所川原まで足をのばしました。大地主だった太宰の父親が建てた大豪邸です。和洋折衷の館内には、太宰の原稿や、書簡などが展示されていました。小学校時代の作文でありながら、その文章力の高さに感心させられました。でも、高校生のころから自殺未遂を繰り返していた太宰の繊細さには、ちょっと引いてしまいました。

今日は、出発も遅れたので、次の訪問地は、青森市内の魚菜市場。こちらの名物、「のっけ丼」をいただくことにしました。１０００円でチケットを買い、ご飯と好きな具材を、場内のお店をめぐって、トッピングしていくのです。大間のマグロ、イクラ、雲丹、ホタテなど、贅沢にのっけていただきました。せっかく、青森市内に来たので、ついでに商店街の物産店で、お土産を物色。私の知り合いのお店だったこともあり、１割引きしてくれました。

最後の訪問地は、三内丸山古墳。雨も降ってきたので、所要３０分で、ポイントだけの見学でした。日本最大級の縄文集落跡で、世界遺産登録をめざしているそうです。中でも、復元された大型掘立柱建物は、そのスケールに圧倒されました。復元されたとはいえ、柱組だけで、外観や内装、何のために建てられた建物かについては、解明されていないそうです。

少々早かったのですが、お土産タイムも考えて、早めにレンタカーを返却。新青森駅の構内で、思い思いのお土産を購入しました。私イチオシの「味噌バター牛乳ラーメン」を、皆さん購入されたようです。併せて、帰りの道中用にと、日本酒やワインを数本購入しましたが、盛岡に着く前に空となり、車内販売でも酒類を購入。盛岡駅まで４人一列に並べたので、最後の宴を楽しみました。（待合室でのビールもありましたが）

終わってみれば、あっという間の３日間でしたが、N 君の周到な事前調査と、S 君のドライビングテクニックに支えられて、I、O ペアは、お客様気分で、旅行を満喫させていただきました。おじさん４人旅も、楽しかったです。

そうそう、次回の旅行先は、宮崎高千穂峡が候補として挙がりました。白神山地の神々しさに刺激されたかも。

原作：O、加筆&写真挿入：N